

再設計されたAP合衆国史のコースと試験における歴史的思考の評価

PART III Large-Scale Assessment of Historical Thinking

Chapter 10: Assessing Historical Thinking in the Redesigned Advanced Placement United States History Course and Exam.
pp.159-170

担当：空 健太（岐阜工業高等専門学校）

sora@gifu-nct.ac.jp

著者

Lawrence G. Charap（所属：College Board）



著者情報：現職はAPカリキュラムのシニアディレクター。カリキュラムの開発、評価の開発、教員の研修など、高校教師や高等教育機関の教員へのアウトリーチを担当。2001年にジョーンズ・ホプキンス大学で合衆国史の博士号を取得している。

■ 用語

- ・ high-stakes assessment | ハイステークスな評価
- ・ multiple-choice question | 多肢選択問題
- ・ document-based question (DBQ) | 資料に基づいた問い
- ・ free-response essay questions | 自由記述の論述問題
- ・ apprentice historians | 歴史家見習い

概要：この章の目的は、AP合衆国史の過去の学習の方法と評価の特徴について明らかにすることである。本章の焦点は、2014年にAPカリキュラムと評価が大きく再設計されており、それが以前のAPの学習の課題あるいは批判をどのように乗り越えるものとなっているかにある。結論を簡潔に示すと、カリキュラムと評価方法が統一され構築されることで、AP合衆国史の教室は歴史的思考力を学習の中心に置くことが可能となっている。

■ キーワード：Advanced Placement (AP), U.S. education system, high school, U.S. History

■ 議論の提案

1. 中等教育段階の生徒に統一された評価を行うものは、アメリカではAPが代表的だが、世界には他にどのようなものがあるだろうか？
2. APは、IBも同じようなものと捉えてよい（実施される教育に大きな違いはない）のか？

■ イントロダクション [p.159-]

- ・ 米国の教育におけるハイステークスなテストの拡大が過去20年間議論となってきたが、歴史や社会科での大規模な試験の取り組みはほとんど見られない。カレッジボードが行うアドバンスド・プレースメント（Advanced Placement：以下APと略記）が提供するコースと試験は、合衆国史・ヨーロッパ史・世界史について、ほぼ唯一の存在である。
- ・ 本章の目的は、APコースと試験の最近の変更が、過去の学習の方法にどのような影響を与えるかを説明することである。

■ 合衆国史におけるAPプログラムの目的（Goals of the Advanced Placement Program in United States History） [p.159-161]

① AP試験の概要

- ・ APプログラムは高校生が大学レベルの授業を受ける機会を提供する世界最大のプログラムである。
- ・ 2012年には学年末（5月）に行われるAP合衆国史の試験を40万人以上受験し、2002年の約2倍に成長している。

② APコースの内容

- ・ 生徒が経験するAPコースは、カレッジボードが各科目ごとに発行するコースの説明（*AP Course Description*）に掲載されたトピックの概略、APを担当する教師が作成したシラバス、AP試験から構成される。
- ・ 試験問題は、大学及び高校の教育者で構成される開発委員会によって検証され、内容は毎年変更される。

③AP試験の内容

- ・APコースを受講することで、生徒は進学後の大学の単位としても認定される。そのため、その経験が高等教育機関のコースに匹敵するという期待に応えるものでなければならない。
- ・AP試験の内容は、資料に基づいた問題（DBQ）、2つの自由記述の論述問題、80～100の多肢選択問題が出題されている（Hacsi, 2004; Rothschild, 1999）。
- ・DBQでは、6～10の関連する一次資料の歴史的意義について、説得力のある議論を構築することが求められる。
- ・その他の論述問題では、自分の知識を使って、合衆国史の様々な側面について歴史的な議論を展開し、それを擁護することが求められる。
- ・生徒の論述は、毎年6月に訓練を受けた大学と高校の教員により採点される。

④AP試験の多肢選択問題

- ・AP歴史の試験には多肢選択問題も含まれる。それにより合衆国史の範囲をカバーし、高い信頼性を確保できる。

⑤AP試験の結果

- ・生徒には1～5のAPスコアが与えられる。5は「その分野で大学レベルの仕事をするのに非常に適している」ことを意味し、1はカレッジボードが上級資格の取得を「推奨しない」ことを意味する。
- ・生徒が大学レベルの歴史の知識とスキルに習熟していることを示すことで、大学が単位の取得や中級コースへの編入を決定する際に利用することができる。

■ APへの批判と歴史のハイスタークスの評価モデル（Critiques of AP and High-Stakes Assessment Models in History） [p.161-162]

①APコースと試験の特徴

- ・APコースは特定の大学やカレッジの特定の調査コースをモデルにしていない。そのため、教育機関によって大きく異なる（Townsend, 2003）。
- ・これまで（2014年以前）、APコースの説明では、指導方法やAP試験に出題される可能性のあるトピックについて生徒がどのくらい深く知っているべきかについて語ってこなかった。そのため、多くの教師がAPコースで可能な限り多くのトピックを取り上げなければならないというプレッシャーを感じていた。

②APコースへの批判1＝事実の暗記・網羅的な学習

- ・2002年の全米研究評議会（National Research Council）の調査→多くのAP科学コースが、教師にコース内の主要なトピックに十分な時間を割くことができず、バラバラの事実の暗記を強調している。
- ・AP歴史についても同様で、例えばWineburg (2006)は、活発な議論をしている教室と、できる限り多くの歴史のトピックを扱おうとしている教室とで分かれていることを指摘している。

③APコースへの批判2＝多肢選択問題と論述問題への批判

- ・多肢選択問題は、真正の歴史の知識を評価する上で適切ではない（Rothstein, 2004; Wineburg, 2004）。
- ・多肢選択問題は、学問分野で評価される歴史的思考や理解力を十分に反映していない（Breakstone, Smith, & Wineburg, 2013）。
- ・歴史的な文脈から外れた事実を生徒に提示することは、理解度が浅くなり長期的な定着性が低い（Willingham, 2003）。
- ・DBQなど論述問題についても、1つの問題に、一次資料の分析に加え、多くのタスク（議論をする、証拠を分析する、情報を総合する等）が含まれている（Breakstone et al., 2013）。

■ カリキュラムの目的を設定する（Setting Curricular Goals） [pp.162-]

①批判への対応

- ・2000年代以降カレッジボードは前述の批判に対応するため、APコースと試験を再設計してきた。
- ・先述したAPコースの説明では、コースの説明におけるトピックのリストはAP試験に含まれる内容にしか対応していなかったが、現在ではカリキュラムの目標と評価の設計を統合するために、Understanding by Design（Wiggins & McTighe, 2005）の方法論を用いて設計されている。

②再設計のプロセス1：歴史的思考スキルの特定

- ・2006年 カリキュラム開発・評価委員会により、AP歴史試験が測定している歴史的思考スキルを特定した

表1 再設計後のAP歴史試験の質問で評価される歴史的思考スキル

スキルのタイプ	歴史的思考のスキル
I 時系列的な推論 (Chronological Reasoning)	1. 歴史的な因果関係 (Historical Causation)
	2. 時代を超えた継続と変化のパターン (Patterns of Continuity and Change over Time)
	3. 年代化 (Periodization)
II 比較と文脈化 (Comparison and Contextualization)	4. 比較 (Comparison)
	5. 文脈化 (Contextualization)
III 歴史的な証拠から歴史的な主張を構築する (Crafting Historical Arguments from Historical Evidence)	6. 歴史的な主張 (Historical Argumentation)
	7. 関連する歴史的な証拠の適切な使用 (Appropriate Use of Relevant Historical Evidence)
IV 歴史的な解釈と総合 (Historical Interpretation and Synthesis)	8. 解釈 (Interpretation)
	9. 総合 (Synthesis)

③再設計のプロセス2：カリキュラムのフレームワークの作成

- ・テーマ的構成 (テーマ→学習目標、トピック)

テーマ「アイデンティティ」
 学習目標：「植民地時代に植民地化したグループ、アフリカ人、アメリカ先住民の間の文化的な相互作用から、集団のアイデンティティや自律性の概念がどのように生まれたかを説明する」

・カリキュラムのフレームワークには、AP試験で必要な知識であるトピック・出来事・パターンを時系列で整理したコースの概略も含まれる。特に、歴史的なトピックは、異なる時代における様々な出来事の重要性を説明する物語形式で提示されており、概念的な用語として提示されている。

■ 記述問題を再設計する (Redesigning Written Assessment Tasks) [p.161-]

①AP試験の構造と性質の変更の必要性

- ・生徒の深い理解と歴史的思考力を向上させるために必要となる指導の柔軟性を教師が持つには、コースのカリキュラムに合わせてAP試験の構造と性質を変えなければならなかった。
- ・特に、フレームワークの学習目標に対する生徒の理解度を評価する問題が必要とされた。

②歴史の評価デザインの出発点：教授・学習と評価に関する先行研究の反映

- ・New York State Education Department, 2013; Stanford History Education Group, 2012; VanSledright, 2014→真正の学問的な実践を反映した評価問題は、十分に裏付けのある歴史的な主張を行うこと、歴史的な証拠を正しく解釈すること、一次資料や二次資料を使用することなどが含まれる。
- ・歴史的な文章の記述に焦点を当てることは、高等教育の教員の期待やコモンコア州スタンダードや、C3フレームワークの傾向とも一致している。

③再設計されたコースの目標に沿った評価課題の開発

- ・多様な専門家と協議→DBQと論述問題をAP試験に残すことを決定
- ・記述問題への批判(=どのスキルを測定しようとしているのかが不明瞭)に応えるために、コースで定義された歴史的思考スキルの1つ以上を対象とした問題として設定されることとなった

例：時代を超えた継続と変化の問いの場合
 →このスキル+歴史的証拠の正確な利用+論述の書き方+情報の総合に関するルーブリックで評価される

④AP試験のDBQと論述問題の特徴

- ・「スキルの複雑な調整を必要とするため、生徒がどのように歴史的な理由づけを行っているのかを明確に理解することができない」(Breakstone et al., 2013) という批判に応えるため、AP合衆国史の試験では4つの短答問題が出題されることになった。
- ・短答問題 (short answer question) は、定義された特定の歴史的思考スキルの1つに焦点を当てる。

例：年代化（historical periodization）のスキルを評価する短答問題→北西部条例、ミズーリ協定、アメリカ・メキシコ戦争から、南北戦争へとつながる分断の危機の始まりを選択させ、選択を擁護させる問題。

■ 多肢選択問題を再設計する（Redesigning Multiple-Choice Questions） [p.161-]

① 多肢選択問題の課題

- ・多肢選択問題で深い歴史的思考を測定することができると期待することは「ポケットナイフを使って手術するようなもの」（Break-stone et al. , 2013, p. 54）。
- ・しかし、APコースの主な目的は、能力のある生徒が大学の入門コースを修了することであり、テスト結果が大学に信頼性と妥当性を与えるため多肢選択問題をなくすることは難しい。

② 多肢選択問題の改善1：量的な改善、範囲の改善

- ・多肢選択問題を減らす（問題数：80問→55問、割合：50%→40%）
- ・内容の範囲を制限（カリキュラムのフレームワークで指定された内容のみを含める）
例：フレームワークのトピックの概略で名前が挙げられていない人物についての記憶を問わない

③ 多肢選択問題の改善2：文脈と切り離されているという批判を踏まえた改善

- ・再設計されたAP歴史試験では、1つの歴史的なトピックについて各2～5問の多肢選択問題が出題される。
- ・その構成原理は、
 - ・1つのセットに含まれる問題の全てが、考えるための素材（歴史的な資料）に関連する
 - ・素材とは、一次資料、二次資料、視覚資料、データである
 - ・素材となる情報源は、フレームワークで規定されたAP合衆国史の学習目標と関連する
- ・ある資料を調べるといふ文脈の中で、その資料の歴史的な意義についての理解を探る一連の質問を行う
質問の例：
 - ・手紙はどのような現代の出来事と関連しているのか？
 - ・風刺画を描いた人物はどの政治団体に最も賛同していたか？
 - ・資料の原因や影響として最も可能性が高いものはどれか？
 - ・資料の中の見解が他の歴史的な時代における類似した見解とどのように比較できるか等

・問いの具体例

問1-2 以下の問いは、下記の抜粋を参考にして回答せよ。

“経済成長は確かに、戦後の態度や期待を形成する上で最も決定的な力となった。1940年代後半から徐々に広がり、1950年代に加速し、1960年代には想像を絶する高みへと急上昇していった。その頃には、観測者を驚愕させるほどの景気となった。第二次世界大戦後の25年間について書いたある経済学者は、このことを「歴史上最高の成長率で持続的に成長した四半世紀」と表現している。イギリスのエドワード・ヒース元首相もこれに同意し、当時のアメリカは「世界がかつて知らなかった最大の繁栄」を享受していたと述べている。” James T. Patterson, historian, *Grand Expectations: The United States, 1945-1974*, published in 1996

1. 抜粋に記載されている経済の動向の重要な結果の一つは、

- A) 米国での性の革命の台頭である。
- B) 米国への入国を求める移民の減少である。
- C) 政治的・経済的な力をもつサンベルトの台頭である。
- D) 女性の就業人口の減少である。

2. 1960年代に可決された連邦政府の政策や新提案の多くは、抜粋で説明されている経済の動向について、次のどれに対処しているか。

- A) 豊かさは人種差別を効果的に排除していた。
- B) 全体的な豊かさにもかかわらず、困窮地域が存在した。
- C) 生活水準の上昇は産業労働者の組合化を促した。
- D) 連邦政府の支出が減少しているにもかかわらず、民間産業は好況を呈した。

図1 再設計されたAP歴史試験の刺激教材と多肢選択式問題

⑥再設計された多肢選択問題の特徴

- ・歴史的な証拠を正しく理解し、それを歴史的な背景の中で解釈することができることを求めている。
 - ・特徴1：試験の目的な生徒の歴史的知識を評価することであるため、合衆国史を履修していない生徒でも答えることができるような、その文章を理解しているかどうかを問うものではない
 - ・特徴2：歴史的事実をテキストから切り離して想起させることを避けようとしている
 - ・特徴3：歴史的背景から独立したテキストや文章の理解度を単純に評価する問題はない

■パイロット調査、検証、教員研修 (Pilot Administrations, Validation, and Teacher Training) [p.161-]

- ・2010年秋に大学教員グループによるパイロット調査が行われ、問題の妥当性（意図した歴史的思考力を測定しているか）が評価された（College Board, 2010）。
- ・カリキュラム開発・評価委員会により、再設計されたAP合衆国史が試験的に実施され、成績の区分や信頼性などの指標で調査した。また、回答時間についての調査も行われた。
- ・2012年5月、新しい問題のルーブリックを適用する訓練を受けた者がパイロット試験を採点した。
- ・調査を踏まえ、試験のデザインと形式が修正→多肢選択問題の重みづけと数の変更、時間の延長など。
- ・2015年5月から再設計されたAP合衆国史の試験が実施されている。

■教師・実践者への示唆 (Implications for Teachers and Practitioners) [p.161-]

①指導の改善に向けた示唆

- ・この再設計は、APプログラムは1956年に開始されて以来最も重要な変更である（Rothschild, 1999）。
- ・学習目標が使用されることは、どのような内容が試験で評価される可能性があるかについて教師と生徒にガイダンスを提供することになる。
- ・焦点を絞った試験の設計によって、試験の実施後に教師は正確な成績報告データを受けとることが可能になり、成績の悪かった分野の指導の改善に取り組むことができる。

②魅力的で有意義な歴史教育のスタイルに向けた示唆

- ・再設計されたAP合衆国史のカリキュラムは、生徒が過去をより深く、より意味のある方法で調べることを目的としている。歴史的思考スキルの発達と結びついた学習目標が使用されることで、柔軟性と制約のある広さを重視するカリキュラムとなっている。
- ・同時に、歴史上の出来事に対する生徒の理解度をより有意義に評価するという目的から、想起ベースの多肢選択問題が廃止され、証拠の分析やその他の歴史的思考スキルを問う多肢選択問題や記述問題を採用した試験デザインが考案された。
- ・カリキュラムと評価の両方の構成要素を同時に構築しなければならなかったことによって、生徒の深い過去の理解を育成し評価するという大きな目標を達成するものとなっている。
- ・魅力的で有意義な歴史教育のスタイルを促進するためには、深い歴史的な推論に対応した新しい形の評価をどのように使用するかを検討しなければならない。

③歴史的思考スキルを育成する学習への示唆

- ・再設計されたAPコースと試験の統合されたアプローチは、APを担当する教師が、歴史的思考スキルと深い探究心を指導の中心に位置付けることが期待される。
- ・以上の変更により、APを担当する教師は、生徒が歴史家見習いになる手助けをする魅力的な学習体験を作り出すことができる。

*参考引用文献は原文を参照